

民児協だより



—支えあう 住みよい社会 地域から—



未就園児の会でのすいとんパーティー

まなざし

中井町民児協は、子どもからお年寄りまで、たすけあい・ささえあい・みとめあって過ごせる、なかい町!を目指しています。

中でも委員が育てた野菜を持ち寄って作る“すいとん”は、いつも大好評です。愛情たっぷりの味に子どもたちの笑顔が溢れます。「おいしかったよ!ごちそうさま!」の声に私たちも笑顔がこぼれます。

その他にも未就園児の会の活動にも積極的に関わり、地域の子もたちと顔が見えるつながりを大切にしています。

焼いもパーティーやおもちつきのお手伝いなど、食育を通して子どもたちの成長を願っています。

これからも地域の身近なサポーターとして、一人ひとりに寄り添った活動を行っていききたいと思います。

(中井町民生委員児童委員協議会)



◆特集 「委員活動を支える」

～座間市民生委員児童委員協議会の取り組みから～

- 活動研究レポート「Fly2 Kids (フライ・フライキッズ)」(鎌倉市第二地区民児協)
- NEWS&インフォメーション・編集雑感 ●通信員だより

特集 「委員活動を支える」

平成28年12月の二斉改選から約10か月。個別支援活動をはじめ様々な地域福祉活動が少しずつ軌道に乗ったところではないでしょうか。
迷いながら、悩みながらスタートした委員活動。その解決の糸口として、委員の声に耳を傾け様々な工夫をしている座間市民生委員児童委員協議会の取り組みを例に、委員活動を「支える」ための視点、工夫について考えていきます。

各地区民児協では、新任委員が個別支援活動を始めて、「困ったこと」「わからないこと」が出てきた時、先輩委員へ相談をしてアドバイスを得たりと、お互いに支え合い、安心して活動に取り組めるよう工夫をしています。

一方、8月下旬に県民協で開催した新任委員を対象とした「課題別集中講座」では、新任委員の「困りごと」について意見を出し合ったところ、「書類が多く整理ができず、活用の仕方がわからない」「活動記録の書き方が難しい」「知識が乏しいので説明できない」という声が多く挙がりました。

「市全体で書類のファイリング方法を決めて管理をしたら、引継ぎがとてもスムーズになりました。」

事務局発「書類の整理をするためのわかりやすいファイリング」の提案

日頃の活動でもとても役に立っています。」と、昨年度のリーダー層向けの研修で市民協の取り組みを発表された座間市第四地区民児協会長の河原田さん。会場からは、大きな反響がありました。
定例会等で委員に配布される資料は、個人情報に関するもの、活動の参考資料、報告書等さまざまです。
座間市民児協（事務局）では、以前から、「色々な資料があつて読み切れない」「整理や活用ができてなくて困っている」という声を聞いていました。そこで委員の代表の方数名より、書類の管理や活用方法の要望を聞きとり、座間市民児協共通のファイリングを提案、平成27年6月に全委員にファイルを配布し、今日に至っています。

色分けと番号による見出しのルールをもとに管理方法を共通化

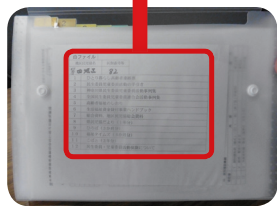
市民協共通のファイルとしては「赤ファイル（以下、『赤』）」と「白ファイル（以下、『白』）」の2種類で、複数の仕切りがあるファイルを使用しています。

『赤』は個人情報を含む書類、『白』は事務を取り組む上でのマニュアル等を入れます。各ファイルには、「見出し一覧表」を一番手前の仕切りに見えるように貼付して、各仕切りに番号を付けて、何番にどの資料が入っているのかが一目でわかるようになっていきます。

また、「ファイルの使用法」

白ファイル	
地区民児協名	区別番号
1	ひとり暮らし高齢者連絡網
2	民生委員児童委員活動の手引き
3	神奈川県民生委員児童委員活動事例集
4	全国民生委員児童委員連合会活動事例集
5	高齢者福祉のしおり
6	生活福祉資金貸付事業ハンドブック
7	総会資料、地区民児協総会資料
8	県民協だより（1年分）
9	ひろば（3か月分）
10	福祉タイムズ（3か月分）
11	こぼと（3年分）
12	民生委員・児童委員活動保険について

一番上の仕切りに「見出し一覧表(囲み部分)」を入れ、書類を一覧表で確認することができます。



を文章化し、共通の管理方法を導入する意義を全委員に周知徹底しています。

実際にこのファイル管理をするようになってからは、委員経験の長さに関わらず、必要な時に必要な書類をすぐに取り出すことができ、例えば、定例会や研修会の際に「白ファイルの○番の資料を持ってきてください」と案内しやすくなる他、資料の過不足を防ぐことにもつながります。

また、引継ぎの際にも、資料の説明もしやすく、このファイルを導入後初となる先の二斉改選の際にも、大きな混乱もなく引継ぎができました。

委員活動のサポートの実際 第四地区民児協での取組み

このようなファイル管理での資料の活用や、安心して委員活動が



決められた番号の場所に、該当の書類を入れていきます。資料の案内もスムーズになります。

行えるよう工夫をしている地区民児協での取組みを、同市第四地区民児協会長の河原田さん（前出）と副会長の城条さんにお話を伺いました。

河原田さんが地区会長として心がけているのは、「できる限りの声かけをして、委員一人ひとりの心配ごとや困りごと等に耳を傾けるようにしています」ということです。これはご自身が新任委員の委嘱を受けた当時、わからないことを気軽に相談できなかった経験から、と言います。

その工夫の一つとして、毎月の定例会の際に提出する「活動記録」の活用があります。

城条さんが、その場で素早く集計した後、河原田さんが活動記録の内容を確認します。こうすることにより、委員活動の傾向が見えてくることも多く、例えば、「調査事務の件数が多かったら、何か難しい相談を受けているのではないか。活動件数が少なかったら、活動できない体調なのかもしれない」と声かけのきっかけにしています。

河原田さんは、常に委員に発信し「相談を受けた時には、必ずその後どうなったのか、と経過を確認し、

必要があればフォローに入るようにしています」と話を続けます。

安心して委員活動ができるように

このファイル管理の導入により、情報の整理や共有の大切さを実感することができ、第四地区では、独自に別色（青）のファイルを購入し、委員名簿や、町内パトロールの資料等、『赤』『白』に属さない地区独自のファイル管理をしています。

他には、庶務や会計、渉外担当の各係、そして、高齢・障害・児童の3つのグループ（座間市民児協では部会を「グループ」と呼んでいます）のファイルも作成し、わかりやすいと好評です。

また、こうしてわかりやすく管理された資料を積極的に活用し、研修会を実施し知識を深めたり、気軽に話をしてもらえるよう小さなグループでの勉強会や懇談の機会を作っています。「大勢の前では話しにくいことでも、少人数なら結構話ができるんです」と河原田さん。こうした勉強会等の開催も、定例会の後や何かの集まりの後に行う等、参加することへの負担感を減らす工夫もしています。

「良い取り組み」は市民児協全体の活動にも活かしていきたい

「こうした地区民児協の『よい取り組み』は、一地区会長としての気づきも多くあります」。そう話すのは市民児協会長でもある阿部さん。

座間市では、6つの単位民児協がありますが、地区によって各グループの活動内容にばらつきを感じていたことから、互いのグループ活動の情報交換、情報共有を目的に、「グループ長会議」を市民児協として初めて開催しました。

「お互いの活動を知ること、自分の地区に足りないものが見えてきた。それを確認したり話し合うことの大切さを感じた」と阿部さんは振り返ります。

このように、第四地区の取り組み

み等をはじめ『よい取り組み』を知ることでも他地区にも様々な相乗効果をもたらすと思われれます。

「少しでも長く、安心して委員を続けていけるように、活動のあり方や支え方を市全体として取り組みたい」と結んでくださいました。

*

新任委員等の困りごとや不安の声に寄り添いながら、活動を支えていくことがとても大切であることを、ご自身の経験の中で実感し、よい雰囲気と環境が作れるよう、地区会長、副会長が連携して日頃の委員活動の中で工夫している様子がうかがえました。

委員の「困りごと」に耳を傾けながら委員活動を支える例として参考にしていただければと思います。



「活動は一人だけでやるものではありません。相談して助け合うことはとても心強いものと思っています。」
（左から、第四地区会長河原田さん、市民児協会長阿部さん、第四地区副会長城条さん）

取材を終えて

- 今回お話しを伺った委員の皆さんが、委員活動を支えていくための努力、相互に助けあうことの大切さを実践されていることに感銘を受けました。
- 委員活動のサポートの他にも、学校・自治会等地域に向けて委員活動を理解してもらえると伺いました。地区の委員を支え、委員活動を支え尽力している姿に感激しました。

市町村民児協発
活動研究レポート
No.39

地域でつくる 地域で支える 子育てサロン

子育てサロンの運営方法は、主任児童委員を中心に児童委員がスタッフとなる場合が主流ですが、鎌倉市第一地区民生委員児童委員協議会が運営している子育てサロン「Fly2 Kids」(フライ・フライキッズ)では、多様な地域住民が運営スタッフの中核となつて活動しています。そこで、今回は活動の立ち上げから、現在も運営スタッフとして参画している主任児童委員の方のお話や、活動を取材した様子から「地域でつくる、地域で支える」子育てサロンをご紹介します。

「いちにーの、さーん!」。青赤白の大きな布が子どもたちの上をふわりとかすめ、子どもたちの歓声が響きます。それを見ているお母さんたち、スタッフの皆さんも笑顔です。

ここは鎌倉駅から若宮大路を海に向かって10分ほど歩いた、緑豊かな住宅街の中にある見田記念体育館。鎌倉市第二地区民児協の主任児童委員がスタッフの一員として関わっている子育てサロン「Fly2 Kids」のプログラムタイムの一つ「音楽ムーブメント」の風景です。(金曜日10時~12時。プログラムタイムは10時45分~11時15分)

開設のきっかけ

活動場所の見田記念体育館は、地域の篤志家より「子どもたちの体位の向上」を願い、寄贈された施設です。

当時の市の担当者から第二地区の主任児童委員に対して「見田記念体育館を会場にして子育てサロン活動をしてほしい」との依頼があったことを受け、「私たちの目指す子育て支援」を形にするため1年間をかけて準備を行いました。

「子育て支援」親のレスパイト(息抜き)だけではない「活動を」目指して

子育てサロンを考える上で基本としたことは「子育て支援」親のレスパイトだけではない」ということでした。子どもと一緒に過ごす時間を楽しみたいと感じられる場や、共に子育てを考える仲間や先輩お母さんとのつながりが持てる場にしたと考えました。

子どもと一緒に遊び、楽しさを感じる時間としてプログラムタイムを作りました。週替わりで親子体操、ダンス、音楽ムーブメント(月2回)をそれぞれのプログラ

ムスタッフが担当します。また希望者には助産師資格を持つスタッフの指導によるベビーマッサージ(月2回)も行います。

そのためには「主任児童委員のサロン活動」ではなく、地域に根差した活動にしていくことがふさわしいと考え、小学校のPTAのつながりを中心に地域の方にも声をかけ25人の仲間が集まりました。そして、元小学校校長(当時は民生委員)を代表としてスタッフチームを結成し、平成18年4月に「Fly2 Kids」の活動が始まりました。



プログラムタイムの一コマ。トンネルを抜けると一層の笑顔があふれます。

みんなが「楽しい」活動、みんなが「育ちあえる」場所になるように

「スタッフ自身も楽しいと思える活動にしたい。また、参加しているすべての方が「Fly2 Kids」のメンバーであり、この場を作っている仲間である」と考えています。誰もが心地よいと感じられる空間を作るため、それぞれがその責任を果たすようにしています。保護者の方には「子どもから目を離さないこと」「使った遊具は自分で片づけること」「体育館のルールを守ること」をお願いしています。スタッフは、これらをきちんと伝え、すべての参加者が楽しく、そして安全に過ごせるようサポートしています。そうすることが「地域で子どもを育てる」ことにつながると考えています。

運営スタッフとして無理なく参加できる工夫

ここでの活動は、主任児童委員を含めた25人と、プログラムタイムをそれぞれの特技や資格を活かして担当するプログラムスタッフ4人で運営しています。

主婦として家事をしながら、子

育てをしながら、また仕事をしながら活動に参加しています。

このため無理なく参加できるよう、①4つのチームを作り、月1回、週ごとの担当制とする ②各チームに連絡係を置きチーム内の情報共有を図る ③年2回のスタッフミーティングを行い運営について全員で話し合うと同時にチーム間の連携を図る 等をしています。

また、年度初めに年間の予定表を作成。第5週目、祝日、年末年始、お盆休みの時期は活動を休みにし、主婦、母、妻としての役割に支障が生じないようにしたり、都合で参加できない時にはお互いに融通し合ったりしています。スタッフとしての活動に過度の負担を感じることはないための工夫はととても大切なことと考えています。

今後の課題

今後の課題として、運営費の確保とスタッフ、メンバーの確保があります。年間44回開催し、800組を超える親子の参加がありますが、その運営は参加費（1組300円）と、当地区が2地区社協に関わっていることから、各地区社協からの活

動援助金（各1万円）によって賄われており、体育館の使用料、空調代、プログラムスタッフへの謝礼、消耗品費、コピー代等の経費に充てています。安定的な運営のために、いずれ何らかの策を講じていく必要性を感じています。

また、スタッフの確保については、地域のつながりを大切にしたいと考えています。これまでも様々な事情で活動を続けられなくなる方がいた場合に、新しいスタッフを誘い「活動に支障が出ないように」との心遣いがありました。スタッフ自身が「ここでの活動を楽しく意味のあること」「関わることで多くの人とつながりができること」を大切なものと感じている証しであり、仲間を増やしていく力になっていると思っています。

*

今では、かつて参加者だった方が運営スタッフとして関わるようになったと伺いました。このような「地域のつながり」を大切にしながら、今後もさらに広がっていくように「Fly2 Kids」の活動を続けていきたい、という想いが強く伝わってきました。

- 取材をとおして**
- 今「地域の色々な方が関わる子育てサロン」は、将来的には増えていくのかもしれないと感じました。
 - 子どもの成長を願うための場所で、活動の基本理念をスタッフ全員が共有し行動する姿や、それを継続する努力は素晴らしいと思いました。

活動のヒント・ポイント

新しい子育て支援を応援！

元 東京都市大学教授
現 児童発達支援センター
アグネス園センター長
山岸 道子さん



鎌倉市で行われている子育てサロンのご様子には大変感動を受けました。今後の在り方の方向を示したものと思われま。

地域から要請を受けられたということも主任児童委員さんの今迄のご活躍を伺えます。最も評価できる点は「レスパイトから子育てを楽しめる日常へのヒント」提供ということです。子育ては負担感が強くなりますと虐待3か月前状態になりやすいものです。楽しめる方法はいくつもありますがそれを実感していただくことができれば素晴らしいと思います。現在、子育て中の方々への大きなプレゼントになることでしょう。今後の課題なども細かく考えられておられ、定着へのステップも伺えます。

主任児童委員の方々の「子育てサロン」には来訪者に楽しんで頂くこと以外に児童福祉従事者として「虐待3か月前の発見と対応」という大きな役割があります。子育てに不安を抱え、苦しみ、虐待に移行しそうな保護者が来訪しやすい雰囲気づくり、一度来訪しながら見えなくなった方の振り返りを行い、虐待への移行を防いで頂ければと思います。地域の善意の方々親切心ゆえに陥りやすいこと「余計なお世話ではなく適切な支援」「上から目線にならない」などなどが厳しい状態にある保護者への支援の場づくりとして重要と思われます。主任児童委員さんの適切なフォローで運営されると「児童福祉」の観点からの真の役割を果たせると思います。大いに期待しております。

NEWS&インフォメーション

民生委員制度創設100周年記念 全国民生委員児童委員大会開催される

去る7月9日(日)、10日(月)の両日、「民生委員制度創設100周年記念 全国民生委員児童委員大会」が、東京都の東京ビッグサイトを主会場に開催され、全国から1万人近い民生委員児童委員等が集いました。

大会は、初日は式典、第二日目に都内各会場に分かれ、テーマ別研修が行われました。

本会からは、約250名の民生委員児童委員、元民生委員児童委員、民児協事務局が参加し、これまでの100年の歴史を振り返り、その原点や多くの先達の思いを再確認するとともに、委員活動の一層の充実、発展に向け、思いを新たにす

る機会となりました。
また、この大会では全国4600通超の応募の中から選ばれ民生委員児童委員活動に関する新スローガン「**支えあう 住みよい社会地域から**」も発表されました。

今回は、参加されたお二人に当日の様子について報告いただきました。

民生委員制度が 全国組織と実感

7月9日(日)、10日(月)に開催された、創設100周年記念、全国民生委員児童委員大会に、250名の神奈川県地区会長の一員として参加しました。

まず、9日には記念式典が東京のビッグサイトで開催されました。参加者は約1万人です。開会宣言の後に、民生委員児童委員信条の唱和をしましたが、初めて経験する1万人の唱和はすごい迫力でも感動しました。

次に天皇皇后両陛下が登壇され、全員が拍手でお迎えしました。そして、国歌斉唱をしましたが、スクリーンに映る両陛下のお姿を見て、陛下のご臨席する大きな会議に自分が参加していることに、感動をおぼえました。体調を考慮されたく、陛下のお言葉はありませんでした。

全国民生委員児童委員連合会得能会長の式辞、塩崎厚生労働大臣



(当時)、小池東京都知事等の挨拶、厚生労働大臣特別表彰等が行われ、両陛下も退席されて記念式典は30分ほどで終了しました。

次の記念講演では、テレビ等で高名な医師で作家の鎌田實氏を講師に迎え、「あなたがいかに社会をつくる」と題して講演をいただきました。「愛」「地域貢献」「希望」をキーワードに、長年の地域医療の経験や、世界各国での経験を踏まえ、軽妙な語り口でユーモアを交えて、興味深い話をしてくださいました。

最後に、「隣組がなくなってきたが、民生委員が最後の砦で守っている。民生委員の愛と地域への貢献が日本の未来への希望になる。民生委員を続けてください。」と締めくくられ、非常に良い講演でした。

二日目のテーマ別研修は、東工大学の安田講堂で開催された、「地域共生社会の実現に向けて」に参加しました。ルーテル学院大

学和田敏明名誉教授をコーディネーターとし、東京大学武川正吾教授、豊中市社協勝部麗子氏、読売新聞社会保障部滝沢康弘記者をシンポジストに迎えた、パネルディスカッションでした。

和田先生の話のキーワードは「我が事・丸ごとの地域づくり」であり、住民主体による地域課題の解決力強化・体制づくりと市町村による包括的な相談支援体制の整備が必要とのことでした。シンポジストの3氏からも、「地域共生社会」に関する、興味深い話を聞くことができました。地域共生社会を自分なりに理解することができた研修でした。

(広報委員会副委員長 田村正二)

暑い夏・熱い思いで
いっぱいになった、
感動と感謝の二日間!

一日目の記念式典は、天皇皇后両陛下ご臨席のための、厳重なセキュリティの中、民生委員制度100周年映像「濟世顧問、方面委員から民生委員へ」で開幕しました。第一部では、全国民生委員児童委員連合会会長の式辞、厚生労働

大臣・全国社会福祉協議会会長・東京都知事のご挨拶がありました。どなたも、地域での民生委員児童委員の役目の重要性を述べられていました。

○民生委員制度は、国の社会福祉とともに、強い使命感・情熱を持ち先達が引き継いできている。
○住民を見守る民生委員の地道で献身的な活動は、行政との架け橋となることが期待されている。
○地域の身近な相談相手である民生委員の力が、住民の安心安全を確保している。

という言葉が心に響きました。続く記念講演は、長野県諏訪中央病院の名誉院長として地域医療に携わってこられた鎌田實先生の「あたたかい社会を作る」をテーマに愛に満ちた説得力のあるお話でした。

『民生委員の活動は、愛・地域貢献・希望です。地域を、土俵際ですべて守っています。誰かのための活動



記念講演 鎌田實さん

は、自分自身の生きる力になります。人間は弱いけど強いです。ほんのちよつと手を差し伸べてもらえれば絶望が希望になることも、誰かの一言で生活のあり方が変わることもあります。民生委員活動は、人々への愛と地域への貢献を實行してきています。「皆さんの活動は、とっても大事です。この国のために活躍してほしい。簡単にやめられないで下さい」と、締めくくられました。「やめられないで下さい」という言葉に、先生の深い思いを感じました。

第二部では次期開催地の紹介があり「沖繩です」とアナウンスされた途端に「お！」と、どよめきがおきました。紺色のかりゆしウェアの沖縄県民児協会長が登壇。沖繩を紹介する映像と『島人ぬ宝』の曲が流れ、会場全体が一つになり柔らかな空気に包まれました。

二日目のテーマ別研修で、私は、東京国際フォーラムでの小規模発表集会に参加しました。47都道府県と20政令指定都市からそれぞれ2本ずつの発表が提出され、27の会議室で5本ずつ発表されるといふ形でした。

混雑の中、資料を受け取り、検

討する間もなく、関心のあるものを選び巡回して聞きました。

- ① 地域での居場所づくりの推進について（大分県宇佐市佐民児協）
- ② 災害に備えた支え合いの地域作り（秋田県秋田市寺内地区民児協）
- ③ 三世代交流の亀阜民協について（香川県高松市亀阜地区民児協）
- ④ 地域で支える仕組みをつくる「社会的に孤立する方へのアプローチ」（仙台市太白区生出地区民児協）
- ⑤ 子育て支援！子育て支援ガイド『ほほえみマップ』づくり（神奈川県山北町民児協）

短時間の発表でしたが、それぞれの地域での取り組みへの思いが伝わり、刺激になりました。

この大会への参加を通じ、民生委員児童委員制度が長く繋がってきた背景とこの先繋いでいく意味を実感しました。

担当地区では、一人一人が責任を持って活動していますが、その後ろには、地区民児協があり、さらに、県民児協、そして、全国民生委員児童委員連合会が大きな受け皿となって私たちの活動が支えられているということも強く感じました。

（広報委員 宇田川敏枝）

編集雑感



原稿上がりは、誤字脱字はないか等々…このような文書が始まること失礼します。「民児協だより」（広報誌）が年四回発行されていますが、お読みになっておられますでしょうか。「民児協だより」は、神奈川県民生委員児童委員、主任児童委員唯一の広報誌です。

この広報誌の中には、県及び県社会福祉協議会の方向性が掲載される場合があります。他に事務局の掲載、地域の通信員からの記事等多岐にわたり内容豊富に編集されております。

編集にあたり、気をつけておりますことは、「民児協だより」が各地区定例会等において、研修会の参考にして頂くよう広報委員一同頑張っております。

最後に皆様へ。
話題等のご提供お願い致します。
（広報委員会委員長 伊藤寧彦）

通信員だより

横須賀市

市内各地区の つなぎ役として!

通信員 田京 進

横須賀市は三浦半島の中央に位置し、東は東京湾、西は相模湾に面しています。東京湾の入口にあり、幕末にペリーが来航した「開国の町」としても良く知られています。人口は約40万で担当する民生委員は584名、18の地区に分かれて社会福祉のために活動しています。

そして、各地区間の相互の連携と活動の充実のために、私たち横須賀市民児協には研究広報部会があります。

各地区における活動の共通問題を持ち寄り、調査・議論・研究し、市内の民生委員向け広報紙として「よこすか民児協会報」を年二回発行しています。企画構想・編集から校閲、発行までの制作活動を行っています。

今期、部会員も新任が大半を占め、活発な意見もあり新たな意気込みすら感じられます。お互いの連携を大切に、全員の力を結集、市内各地区の「つなぎ役」となるよう一歩前に踏み込めればと部会員一人ひとりが感じております。

自己研鑽を積み、発行を通じ会員に有益な情報が提供できるよう魅力ある広報紙へと念願し活動しております。



横須賀基督教社会館会長 阿部志郎氏と
市委員座談会の様子

茅ヶ崎市

振り込め詐欺防止 ステッカー配布

通信員 中尾 圭子

茅ヶ崎市は「振り込め詐欺」被害が県内で政令市を除く市町村で最も多い市です。これを改善するために、茅ヶ崎警察署は「こんな電話は詐欺!」というステッカー(下写真)を作成し、70歳以上の方に配布することになり、民生委員が協力することになりました。



電話近くに置いて、未然に詐欺を防ぎます

訪問をしてみて「電話がかかってきた」という経験をした人が多いことに驚きました。

「息子の実名を言われたが、内容がおかしかったので詐欺だと分かった。ひっかからなかったが怖くて震えた」「変だな?とは思ったが、息子かもしれないと不安になった」

対策として「電話がかかってきたら、『もしかしたら詐欺かも?』と考えて深呼吸してから受話器をとる」「留守番電話やナンバーディスプレイにして、相手を確認してから受話器をとる」など、工夫されていることも伺うことができました。寡黙な方が「誰かに話したかった」と心の扉を開いてくださり、新たな対話が出来たようになったのは民生委員として嬉しいことです。

警察によるとステッカー配布により、「詐欺かも?」と思う人が増え「抑止力になっている」ということです。

寒川町

「つくしの家まつり」に 参加して

通信員 新井 泰春

このまつりは、「つくしの家まつり」実行委員会が中心となり、地域の障がい児・者と地域の人々との交流をめざして行われているもので、私たち民生委員は、例年バザー販売のお手伝いをしています。

今年で9回目迎え、去る5月27日に開催されました。当日は好天にも恵まれ、露店も盛況で多くの地域の方々を訪れました。



地域の人の交流「つくしの家まつり」

会場となった「つくしの家」は、障がい児・者の地域作業所として運営されています。毎日平均15名ぐらいの方が来所し、簡単な仕事をしています。内容としては、通年ではありませんが、ボールペンの中身の組み立て、割り箸の袋詰め、ビールのラベル貼りなどがあります。

また、通年を通して、寒川駅前公園とトイレの清掃、健康管理センターの清掃等を行っています。

寒川町には、8カ所福祉施設事業所、2カ所の相談支援事業所があります。これらの機関が連携協力し障がい者が地域で働き、安心して地域で暮らせるよう日々努力しているということです。全ての人が安心して地域で暮らせるよう私自身も力添えをしたいと思います。